

国語科指導案

日時 平成29年5月16日(火) 5校時
児童 5年生
授業者
授業場

1 単元名 附小の「厚」学年を紹介！『厚岸タイムズ新聞』 ～中心教材「言葉と事実」～

2 単元の目標

「厚岸みどりの学校」で特に心に残った出来事(同じ事実)について新聞で紹介するために、関連する文章を読む言語活動を通して、主張とその根拠になる事例やその構成についての考えを明確にしながらかくこと。
(中心となる指導事項ウ 関わる言語活動例イ)

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、自分が経験した「厚岸みどりの学校」について新聞で紹介するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用する言語活動を通して、主張とそれを支える事例や文章の構成に着目して捉えた内容について、自分の考えを明確にしながらかく力を高めることや、それを通して自分の考えを広げたり、深めたりしようとする読書の態度を養うことを目指している。本単元で扱う中心教材「言葉と事実」は筆者の主張と、事例の結びつきについて考えを整理しながら読みやすい作品であるといえる。誰でも知っている「イソップ童話」や、誰でも経験したことのある「運動会」、誰でも見たことのある「商品を紹介する札」を事例に挙げ、それぞれに意味をもたせていることから、読み手の日常生活と具体的に結びつく主張や、それを支える事例・構成についての筆者の意図について、自分の考えを明確にしながらかく進めることができる。さらに、本文の内容からは、「言葉の使い方」や「受け取り方」、相手を意識した表現方法について読み取ることもできる。

これらの作品の特徴から、主張とその根拠になる事例やその構成についての考えを明確にしながらかくことに適した教材であると言える。

(2) 目指す児童・生徒像

児童はこれまでに、「読むこと」領域(説明的文章)において次のような活動を体験し、言語能力を身に付けてきた。

これまでに児童が体験した活動 【4年生段階】	獲得した(発揮される)言語能力	本単元において重点的に獲得させたい言語能力
○生き物について書かれた文章などを要約しながら読む活動 ○身近なものについて書かれた文章などの段落相互の関係や事実と意見の関係を考へて読む活動	○中心となる語や文を捉えて読む力 ○「はじめ・中・おわり」などの段落相互の関係に着目して読む力 ○筆者が述べている事実と意見の関係性に着目して読む力	○筆者の主張とその根拠になる事例やその構成についての考えを明確にしながらかく ※構成の意図や表現の意図への着目

このような児童の実態から、本単元における目指す児童像を、前学年までに積み重ねてきた「段落相互や事実と意見の関係性」について着目する言語能力を発揮しながら、新聞を作成するために、筆者の構成や表現を利用するという「単元を見通す言語活動」を通して、筆者の主張とその根拠になる事例やその構成及びそれらの意図についての考えを明確にしながらかく力を高めていく姿とした。

(3) 指導観

「認識から思考へ」「思考から表現へ」のプロセスを重視した言語活動の充実

「日常生活との関わりを意識した、活動自体に納得が図れる言語活動」を意識して学習過程をデザインしていく。本単元では、「日常生活」を行事(厚岸みどりの学校)との関わりと捉え、「実際に見ることができない保護者」に向けて学年で取り組んできたことを伝えるという目的意識をもたせることで、新聞作りという言語活動への納得を図っていく。新聞は「伝えたいテーマ」に沿って見出しや本文などの構成が工夫されているという特性を有しており、児童がこれまでの生活経験の中で目に触れたことがある身近な対象物でもあると考へる。ただし、本単元においては、筆者の主張・構成・表現及びその意図について読

むことで、新聞を作成する表現者としての考えを深めていくことというねらいの基、見出しや写真などの新聞の構成の中でも、記事の書き方を学ぶという視点に焦点化して単元をデザインしていく。

これらを踏まえ、次のような「見方・考え方」を段階的に引き出し、ねらいとする思考を高めていくことで目指す児童の姿に繋げていくこととする。以下に、研究に関わる具体的な手立てを述べていく。

本単元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

目指す獲得させたい言葉の力

筆者の主張とその根拠になる事例やその構成及びそれらの意図についての考えを明確にしながら読む力

国語科において目指す「対話的な学び」

一単位時間において引き出したい「見方・考え方」を含む思考

- ・表現や構成には何か筆者の思いが隠されているのかもしれない。
- ・筆者はどのような構成で主張を伝えようとしているのかな？序論・本論・結論の役割をはっきりさせているんだね！
- ・3つの事例を用いながら主張をする必要はあるの？3つの事例には、それぞれに筆者の意図が隠されているんだね！
- ・筆者はどんなことを意識して主張を述べているのかな？筆者の主張は、事例とのつながりをはっきりさせて述べられているよ！根拠がしっかりしているから、読む人が納得できるところが多いんだね。

本単元において目指す児童の姿

①既存の言語能力による意味付けを揺さぶる教師のかかわり～I

前述のような「言葉による見方・考え方」を拡充したり鍛えたりすることができるように、一単位時間において次のような教師のかかわりを通して既存の言語能力による意味付けを揺さぶっていく。

時	主な教師のかかわり	鍛える・拡充する見方・考え方
3	序論・本論・結論の境界線を提示し、それぞれがどんな役割を担っているのかを問うことで、筆者の構成とその意図について捉え直すことができるようにする。	【言葉の働き】 筆者の構成やその意図
4	中心教材と事例の挙げ方が異なる文章を比較しながら事例の意味を問うことで、各事例における筆者の意図について捉え直すことができるようにする。	【言葉の意味】 筆者の主張の根拠になる事例とその意味
5	題名（「言葉と事実」とは□□□□【空所】）を提示することで、筆者の主張を端的に読み取った後、結論部分の筆者の伝え方の意図について問い、事例と主張のつながりについて捉え直すことができるようにする。	【言葉の使い方】 事例との結びつきを強くするための2つの結論（段落の内容）

4 評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	言語に関する知識・技能
ア 課題を解決する見通しをもちながら、新聞記事の特徴を読もうとしている。 イ 主張を効果的に伝えるための構成や表現を意図しながら、記事の題材を選ぼうとしている。	ア 文章の大まかな構成や内容を捉えて読んでいる。 イ 文章の構成の仕方に着目して読み、内容を的確に押さえて読んでいる。 ウ 筆者が挙げている事例に着目して読み、それに関わる筆者の意図について、自分の立場や考えを明確にして読んでいる。 エ 筆者の主張と事例の関係性に着目して読み、それに関わる筆者の意図について、自分の立場や考えを明確にして読んでいる。	ア 文章全体の構成は目的に応じて異なることを理解しながら文章を読んでいる。

5 学びの過程のデザイン

下支えする主体的な学び	学 習 活 動	手 立 て
主張の根拠になる事例やその配列が欠落している記事を提示する。	1 時間目 「厚岸みどりの学校」について新聞で紹介するという言語活動について知り、学習計画を立てる。 関ア	厚岸タイムズ新聞を作成するための手順や計画を交流する中で、記事の 内容・構成・表現 を考えていく必要性が生まれるようにする。
複数の関連作品（意見を述べた文章）を紹介する。	2 時間目 中心教材「言葉と事実」や関連作品を読み、感想や疑問を交流する。 読ア	中心教材と関連作品の共通点や相違点について問うことで、どの作品にも構成や表現に 筆者の意図 があるということに気付くことができるようにする。 I
意見を述べた文章の筆者の意図に着目して読む時間を保障する。	筆者の構成や表現には意図が隠されている	自分が選んだ 序論・本論・結論 の境界線とその根拠について問うことで、 構成の仕方 に着目しながら、それぞれが有する 働き・役割 に気付くことができるようにする。 I
序論・本論・結論の境界線を複数提示する。	3 時間目 段落のまとまりやつながりを考えながら、序論・本論・結論を捉え、筆者の構成の意図についての考えをまとめる。 読イ	事例の配列が異なる複数の文章の筆者の意図を問うことで、 主張の根拠になる本論 への着目を促し、 それぞれの事例がもつ意味 について気付くことができるようにする。 I
筆者の「文章構成」について考えをまとめたり、関連作品を読んだりする時間を保障する。	序論・本論・結論の構成の意図をはっきりさせて伝えている	主張と事例の関係性が異なる文章における筆者の意図を問うことで、 本論及び結論の述べ方 への着目を促し、 主張と事例の結びつき について気付くことができるようにする。 I
中心教材と、事例の意図が欠落している文章を提示する。	4 時間目【本時】 筆者が挙げている事例やその意図を読み、それらについての自分の考えをまとめる。 読ウ	厚岸みどりの学校での複数の体験活動やその意味について問い、表現者として内容・構成・表現の意図をもちながら、題材を選択することができるようにする。 I
筆者の「事例部分」について考えをまとめたり、関連作品を読んだりする時間を保障する。	複数の事例とその意味（抽象・具体的データ等）を考えて伝えている	学習計画を立てて見直しをもってきた大きな課題を解決してきたことを価値付けし、学びの意味の実感をするようにする。
中心教材と異なる主張の構成や表現をもつ文章を提示する。	5 時間目 筆者の主張の伝え方の意図を読み、それらについての自分の考えをまとめる。 読エ	
筆者の「主張と事例部分の関係性」について考えをまとめたり、関連作品を読んだりする時間を保障する。	複数の事例の意図とつながるように主張で述べる構成や表現を考えている	
テーマを効果的に伝えるための「構成」「事例の意味」「主張と事例の関係」（考えをまとめた内容）に着目して題材を選ぶ時間を保障する。	6 時間目 「厚岸みどりの学校」で体験したことを基に、新聞に書く題材を選ぶ。 関イ	
既得の「説明文のカギ」を選択して言語運用することで、自ら読む力を発揮することができたことへの自覚化を図っていく時間を保障する。	7・8 時間目 紹介する相手（親）に相応しい伝え方を意識しながら、新聞を作成する。 言ア	

6 本時について（4／8時間目）

(1) 本時の目標

中心教材「言葉と事実」と異なる事例の意図をもつ文章を比較し、適した言葉の使い方について交流する活動を通して、筆者が挙げている事例に着目して読み、それに関わる筆者の意図について、自分の立場

や考えを明確にして読むことができる。

(2) 本時における研究の視点

本時においては、「対話的な学び」の中で「見方・考え方」を高めていくための工夫を以下のように位置付けていく。

既存の言語能力による意味付け揺さぶる教師のかかわり～I

個や少人数で思考する場面において中心教材と、事例を挙げる意図が見えにくい文章を比較しながら事例の意味を問うことをきっかけとして、全体で思考する場面で、事例やその配列についての各文章の筆者の意図を問い、「読み手側に立った表現者の工夫」に着目できるようにする。さらに、個に回帰して思考する場面で、筆者の事例の挙げ方やその意図について、自分の考えを再構成することができるようにする。

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導(▲)
<p>1 前時までの活動を振り返り、本時の学習の見通しを明確にする。</p> <p>前の時間は、序論・本論・結論という大きなまとまりの役割や筆者の意図を読み、考えをまとめたよ。</p> <p>主張を強く伝えるためには、その根拠になる本論の構成や表現の秘密を考えていく必要があるね。</p> <p>主張が強く伝わる文章はA?B?</p> <p>何となくAの方がわかりやすい気がするよ。 Bの方も読む人に伝わる文章かもしれない。</p> <p>筆者が本論にどのような意図を込めているのかわかれば。記事の中心の書き方もわかりそうだよ。</p>	<p>□ 2つの文章を提示し、どちらがより主張を強く伝えられる文章であるか、既得の言語能力を用いながら現時点での立場を判断できるようにする。 手立てI</p> <p>○ 筆者の本論における構成や表現の工夫を探ることで、主張を強く伝える文章の秘密がわかることを共有し、一単位時間の見通しや必要感を生み出すことができるようにする。 A-①</p>	
<p>主張を強く伝える本論の書き方とは？筆者の意図を探り、自分の考えをまとめよう</p>		
<p>2 主張が強く伝わる文章はどちらかとその根拠を個や少人数で考える。</p> <p>Aの書き方は、詳しい数字がある事例があるからわかりやすいよ。 Bの書き方は、同じ内容の事例があって読みやすいよ。</p> <p>3 選んだ立場と根拠を全体で交流する。</p> <p>主張が強く伝わるのはA?B?自分とみんなの考えを比べてみよう。</p> <p>違いは、事例の内容だね。あと、Bには段落の最後にまとめの文章が書かれていないよ。</p> <p>同じ内容の例だとだめなのかな? まとめ文章があるのとならないのでは何が違うの?</p> <p>Aの筆者は、読み手の経験と関係する例や説得力のある数字がある例の意味や順序を工夫して伝えているんだね。内容が違って、意味のある事例の挙げ方をしているよ。</p> <p>伝えたい主張によって、どんな事例を挙げるとよいかがかわってくるんだね。</p>	<p>A: 事例1: 運動会 事例2: スーパー B: 事例1・2ともに運動会</p> <p>○ 個や少人数に「どちらの文章がよい?」「なぜよい?」等について問い、一人一人が立場と根拠を明確にできるようにする。</p> <p>【発問等の構成】</p> <p>○ 「主張がよく伝わったと感じたのはどちらの文章?なぜ?」 ⇒ 個の立場・考えの表出</p> <p>○ 「AとBの文章の一番の違いは?」</p> <p>○ 「その違いで伝わり方が変わるの?」 ⇒ 自分と他者の考えの比較・分類・整理</p> <p>◆ 以上の発問や問い返しにより、筆者が挙げている事例の意図についての考えをもつことができるようにする。 手立てI</p>	<p>【読む～ワークシート】</p> <p>▲ 活動が停滞している児童には、友達の考えを聞いて、考えを整理していくように促す。</p> <p>▲ 根拠となる言葉を明確にして解決できている児童には、欠落している文章の意味を問い直していく。</p>
<p>「記事の中心」となる本論には、複数の事例とその意味を考えて伝える筆者の意図がある</p>		
<p>4 全体交流を基に、ワークシートに筆者の伝え方の工夫についての自分の考えを整理する。</p> <p>・ Aの文章の書き方に賛成だよ。筆者は、読む人を納得させるために、状況の違う2つの事例を用いているからね。</p> <p>・ Bの文章の書き方も、状況が同じ例を用いると伝わりやすいと思うけど、それぞれの例がもつ意味はAより少ないから、やっぱりAの方がいいね。</p> <p>5 本時における自分や他者の読みについて振り返り、次時への見通しを持つ。</p>	<p>□ 中心教材の「筆者の伝え方の工夫」を書いたり、関連作品を読んだりする時間を保障し、意識的に「事例やその意味」を読みながら、本時で獲得した言葉の力の自覚化を図っていくことができるようにする。 B-①</p> <p>○ 筆者の書き方の工夫についての考えを蓄積できたことについて価値付けし、本時の学びの有用性について一層実感することができるようにする。</p>	<p>▲ 根拠となる言葉に着目できていない児童には、全体への問い返しや板書の内容を基に理解を促すことができるようにする。</p> <p>【読む～ワークシート】</p>